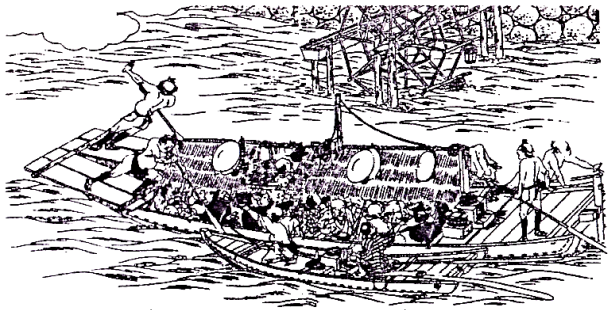
歴史を学ぶ講座　新・八幡の歴史 54回目

今回は淀川を運行する船を話して下さいました。江戸時代、淀川には大阪と伏見・京都を結ぶ交通手段として 30 石船(米で言うと 30 石、重さでは 450 kgの重量まで積める船)がありました。船頭は 4 人で定員は 28 人。右上の写真の小さい方の船は「くらわんか船」で、「飯くらわんか、酒くらわんか」と言いながら 30 石船に近づいて酒や飯を売っていたそうです。30石船の難点は上流に進む時には 4 人の船頭さんだけでは苦しく右の写真のように川の両岸から綱で引っ張る人たちがいた。重労働ですが、低賃金かボランティアだったそうです。運賃は伏見から大阪まで 144 文(今では 4752 円?)。江戸時代には朝鮮通信史一行も大阪から淀川を船で京都まで行ったとのこと。鉄道や自動車が普及するまで、淀川ではこの船が利用されていたそうです。



(淀川を往来する通船)

(御座船賃定書)

① 日時　2024 年 3 月 7 日(木)13 時 30 分～
② 講師　　出口修さん
③ 参加費 100 円

八幡まるごと館/八幡市男山松里１２−２０（TEL&FAX）０７５−９８３−３６６４
（E-MAIL）yawata@marugotokan.net 作られた
ホームページは http://marugotokan.net/
又は、八幡まるごと館で検索して下さい

●

八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土･日午後です。